

バングラデシュでニパウイルス感染症が発生

2012年1月25日 ProMED 情報(BD News 24)



ニパウイルス感染症により、最近の4日間で5名が死亡しました。1月24日、バングラデシュ伝染病研究所(IEDCR)は、ホームページで5名の死亡を報告しました。現在、研究所から調査チームが派遣されています。5名の死亡患者のうち2名は、ジョイプールハット joypurhat 市、他の者は Khetlal 郡で発生しました。ニパウイルスは、脳炎を起こす重篤な疾患で、呼吸器症状、けいれん、おう吐、意識障害を生じます。専門家は、未処理のジュースは飲まないこと、自然宿主であるフルーツこうもりにかじられた果物は直接口にせず洗ってから食べることを、また患者と接触した後は手を洗うことを勧めています。

[ProMED 調整者]バングラデシュでは、ニパウイルス感染患者が散発的に発生します。昨年も同期間の1月31日～3月5日までに、ランブル Rangpur で35名が死亡しました。*Pteropus*(オオコウモリ属)のフルーツこうもり「空飛ぶキツネ」が、ニパウイルスの自然宿主です。